

## 置戸町秋田の町道と河川の損傷に関する調査メモ（その2）

調査日；2016/9/5（月）

調査者；宮森保紀（北見工業大学）

調査箇所；置戸町 （43°44'14.19"N 143°35'32.81"E） （43°44'12.83"N 143°35'32.17"E）  
（43°44'9.94"N 143°35'25.5"E）

概要；

置戸町秋田の図1の地点では、道路と河川に被害が発生していた。調査地点は訓子府川が支流と合流する点で、町道が訓子府川を渡りながら並行している。

町道は盛土が約85mにわたり崩落し、土砂が畑地に流出した(図2、図3)。被災箇所は東側がやや高く、路面上を流下した大量の雨水の影響と考えられる。この道路被災箇所でも訓子府川からの越水などの直接的な影響は見受けられなかった。

河川では図1で東側にある支川と西側の本川で被害を確認した。図4、図5の支川の被災箇所では橋（ボックスカルバート）の直下流で河岸が浸食され、護岸ブロックの背面も浸食されたと推測される。本川では、幸川橋の下で護床ブロックの部分的な変状が発生した(図6)。橋の直上流の屈曲部では図7のように河岸が浸食を受けた。この河岸浸食箇所では、年代の違う布団かごが施工されており、過去にも繰り返し対策が行われていたものと考えられる。なお、幸川橋の左岸側橋台では、図8のように背面土が若干流出していたが今回の豪雨によるものかは不明である。

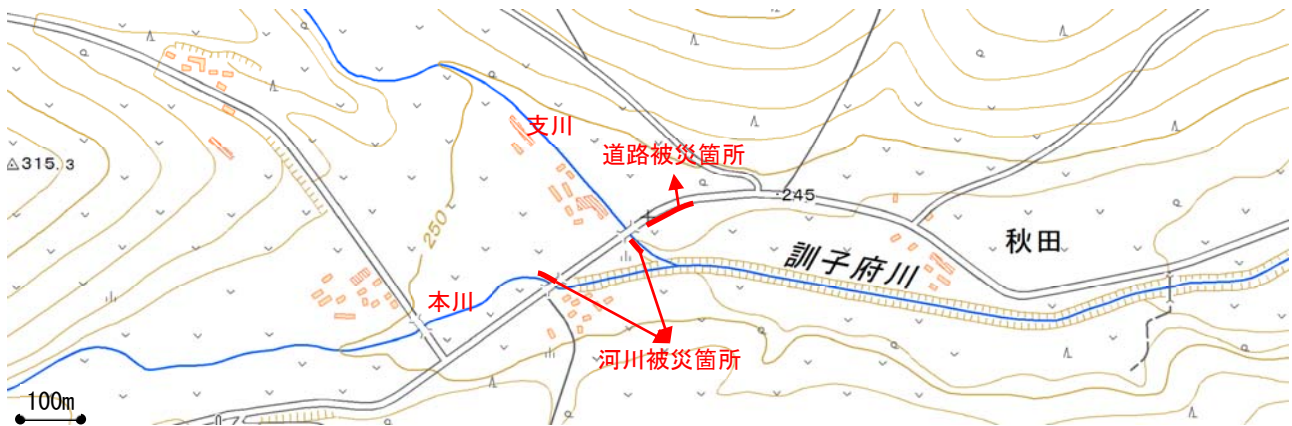


図1 被災箇所見取り図（地理院地図に加筆）



図2 道路被災箇所全景（西向きに撮影）



図3 道路被災箇所（西向きに撮影）



図4 支川被災箇所全景



図5 支川の河岸浸食と護岸ブロックの変状



図6 本川護床ブロックの変状



図7 本川の河岸浸食



図8 橋台背面土の部分的流出

連絡先

北見工業大学 社会環境工学科 准教授 宮森保紀

eメール: miyamoya (at) mail.kitami-it.ac.jp